

# SFC011SB

超音波流量計用変換器

コンフィグレーションソフト

IM-F2549-J00

# 取扱説明書



# SFC011SB

# コンフィグレーションソフト

# 目 次

	本書で使用しているマークについて	1
	準備	1
	メイン画面	
2.	メニュー詳細	4
	2.1 Parameter Setting	4
	2.1.1 Device No. / Data Write	6
	2.1.2 Basic	7
	2.1.3 Linearizer	9
	2.1.4 Totalization	11
	2.1.5 Output Setting	12
	2.2 Status Monitor / Zero Adjust	13
	2.3 Flow Monitor	15
	2.3.1 START / STOP ボタン	15
	2.3.2 Graph Setting	16
	2.3.3 Data Log	17
	2.3.4 流量トレンド	18
	2.3.5 流量グラフ	19
	2.4 Error Log.	20
	2.5 Wave Monitor	21
	2.6 Firm Download	21
3.	エラーメッセージ	22
	3.1 COM Port Open Error	22
	3.2 Write Error / Read Error	22
	3.3 XX is O to O	22



# ■ 本書で使用しているマークについて

本書では、注意していただきたいこと、また、取り扱い上守っていただきたいことの説明に次のようなマークを付けています。これらのマークの箇所は必ずお読みください。



この表示は製品の取り扱い上、必要不可欠な操作や情報を示しています。

# ■ 準備

流量計のパラメータ設定を行うために、以下のものを事前に準備してください。

1) PC (別売)

OS: Windows 7 以降

※.NET Framework4.0 がインストールされていること。

下記 URL よりダウンロード可能です。

http://www.microsoft.com/ja-jp/download/details.aspx?id=17718

※.NET Framework4.0 は Windows installer 3.1 のインストールが必要です。

2) 通信ポート

※PC に RS-485 通信ポートがない場合は別途、通信コンバータを購入してください。 動作確認機種 … システムサコム販売 USB485I RJ45-T4P (Japan)

3) DC24V 電源(別売)

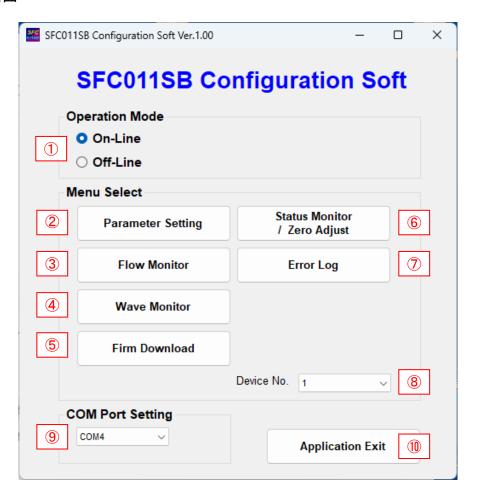
連結台数に対応する電流容量であること。

- 4) SFC011SB
- 5) コンフィグレーションソフト



コンフィグレーションソフトの仕様・バージョンは予告無く変更する場合があります。 あらかじめご了承ください。

# 1. メイン画面



### ① Operation Mode

ON LINE モード (通信接続)、または OFF LINE モード (通信未接続) を選択します。

#### 2 Parameter Setting

ユーザーパラメータ設定メニューを開きます。 詳細は「2.1 Parameter Setting」を参照。

#### 3 Flow Monitor

流量モニタを開きます。 詳細は「2.3 Flow Monitor」を参照。

# 4 Wave Monito

波形モニタを開きます。 詳細は「2.5 Wave Monitor」を参照。

#### ⑤ Firm Download \*1

※ユーザーは使用しないでください。

#### 6 Status Monitor/Zero Adjust

ステータスモニタを開きます。 詳細は「2.2 Status Monitor/Zero Adjust」を参照。

#### 7 Error Log

エラーログを開きます。 詳細は「2.4 Error Log」を参照。

#### ® Device No.

設定するデバイス(検出器)を選択します。

# 9 COM Port Setting

通信コンバータの COM ポート番号を設定します。

# ① Application Exit

コンフィグレーションソフトを終了します。

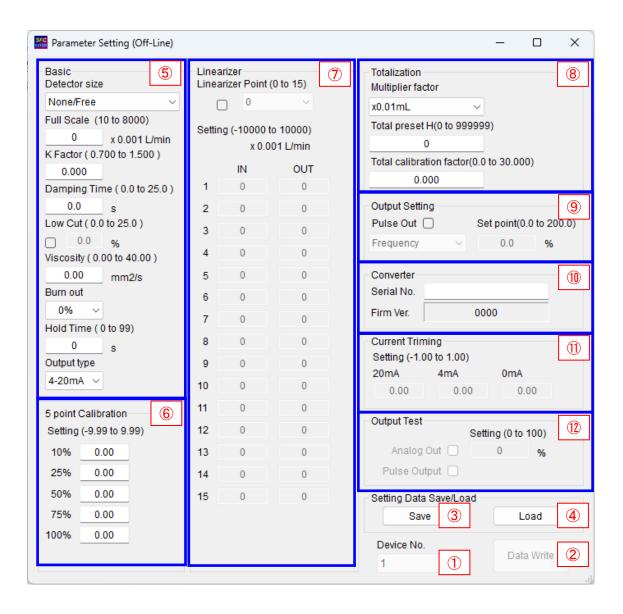
※1: 本メニューはメーカー用のメニューとなります。誤入力や SFC011SB の誤動作防止のため、ユーザー側では使用しないようお願いします。



# 2. メニュー詳細

# 2.1 Parameter Setting

ユーザーパラメータを設定します。



#### ① Device No.

指定したチャンネルのパラメータを読込みます。 詳細は「2.1.1 Device No. /Data Write」を参照。

#### 2 Data Write

指定したチャンネルのパラメータを書込みます。 詳細は「2.1.1 Device No. /Data Write」を参照。

#### 3 Save

ユーザーパラメータを保存します。

#### 4 Load

ユーザーパラメータを読込みます。

#### ⑤ Basic

基本パラメータを設定します。 詳細は「2.1.2 Basic」を参照。

#### 6 5 point Calibration

流量校正時に使用する機能です。

#### (7) Linearizer

流量を補正します。 詳細は「2.1.3 Linearizer」を参照。

#### 8 Totalization

積算機能使用時のパラメータを設定します。 詳細は「2.1.4 Totalization」を参照。

# 9 Output Setting

デジタル出力の設定を行います。 詳細は「2.1.5 Output Setting」を参照。

# 10 Converter

SFC011SBの変換器情報を表示します。

• Serial No.: シリアル番号を表示します。

• Firm Ver. : ファームウェアバージョンを表示します。

### ① Current Trimming

電流出力の調整を行います。

# ① Output Test

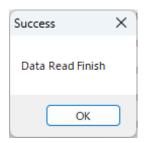
アナログ出力やアラームの接点の動作確認を行います。

# 2.1.1 Device No. / Data Write

ユーザーパラメータの読込みと書込みを実行します。

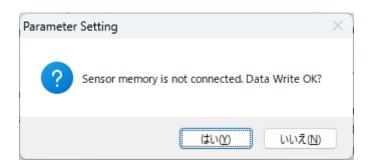


- 1) "Device No."でパラメータの読込み・書込みを行うチャンネル番号を設定します。
- 2) 設定したチャンネル番号のユーザーパラメータを読込みます。 ユーザーパラメータが正常に読込まれた場合、"Data Read Finish"メッセージを表示します。

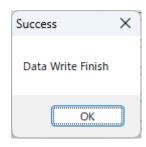


ユーザーパラメータの読込みに失敗した場合、"Data Read Error" メッセージを表示します。 エラーの詳細は、「3.2 Write Error/Read Error」を参照。

3) "Data Write" ボタンを押下すると、表示中のチャンネルのユーザーパラメータを SFC011SB に書き込みます 下記のメッセージが表示され、"はい"を押すことで書き込まれます。



正常に書き込まれた場合には、"Data Write Finished"メッセージを表示します。

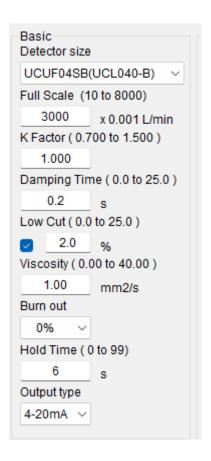


書込みに失敗した場合、"Data Write Error" メッセージを表示します。 エラーの詳細は、「3.2 Write Error/Read Error」を参照。



# 2.1.2 Basic

基本パラメータの設定を行います。





#### Detector size

使用する検出器を設定します。

# ●Full scale

流量フルスケールの設定を行います。 テキストボックスに数値(10から8000)を入力します。 [単位:小口径(0.001×L/min)、大口径(0.01×L/min)]

#### K Factor

流量補正係数の設定を行います。
※工場出荷時に調整されていますので、変更しないでください。
テキストボックスに数値(0.700~1.500)を入力します。

#### Damping Time

応答時間の設定を行います。 テキストボックスに数値  $(0.0\sim25.0)$  を入力します。[単位: 秒]

#### ●Low cut

ローカットオフの設定を行います。 チェックボックスで機能の有効/無効を選択します(チェックが入っている時が有効)。 テキストボックスに数値( $0.0\sim25.0$ )を入力します。[単位:%]

#### Viscosity (Kinematic Viscosity)

流体動粘度の設定を行います。 テキストボックスに数値  $(0.00\sim40.00)$  を入力します。[単位:  $mm^2/s$ ]

#### ●Burn out

エラー発生時の流量出力の設定を行います。(0%、-25%、125%、Hold) [単位:%]

#### ● Hold Time (Error Hold Time)

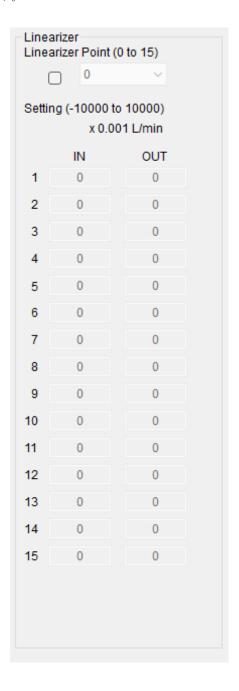
エラー出力までの時間を設定します。 テキストボックス数値 (0~99) を入力します。[単位:秒]

#### Output type

アナログ出力タイプをコンボボックスから選択します。(4-20mA、0-20mA)

# 2.1.3 Linearizer

流量を細かく補正することが可能です。





#### Linearizer point

- 1) チェックボックスで機能の有効/無効を選択します (チェックが入っている時が有効)。
- 2) 流量補正点数をコンボボックスから選択します  $(0\sim15)$ 。

#### Setting

流量補正値(-10000~10000)を入力します。

[単位:小口径(0.001×L/min)、大口径(0.01×L/min)]※IN、OUTの流量補正値は、低い流量から入力してください。

#### 【流量補正の設定例】

フルスケール 1000mL/min 設定において、流量 300mL/min と 500mL/min の流量値を補正する。 秤量法で試験した結果、実流量が 300mL/min に対し、SFC011SB の指示値は 280mL/min、実流量が 500mL/min に対し、SFC011SB の指示値は 520mL/min であった場合、下記のように設定を行う。

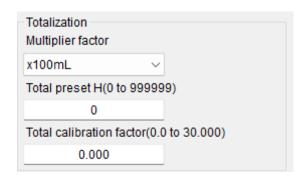


- 1) 補正点は2点なので、Linearizer point を "2" と設定します。
- 2) "SFC011SB の指示値"を IN (mL/min) 列に入力します。 "実流量"を OUT (mL/min) 列に入力します。

# 2.1.4 Totalization

積算機能使用時のパラメータを設定します。

「2.1.5 Output Setting」の設定で**<Total>**または**<Total Preset H>**選択時に必要な設定となります。



# Multiplier factor

**<Total>**または**<Total Preset H>**選択時に、ここで設定した流量を 1 カウントとし、内部の積算カウンタ(以下、内部カウンタ)に加算していきます。

<Total>選択時はデジタル出力へも1カウント=1パルスとして出力動作します。

# ●Total Preset H

デジタル出力でくTotal Preset H>を選択した場合、

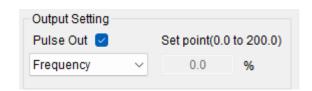
この設定カウント数を内部カウンタが超えた場合、デジタル出力が ON となります。

#### ●Total Calibration factor

<Total>または<Total Preset H>選択時にカウント数を係数倍して出力します。 係数が必要ない場合は1に設定してください。

# 2.1.5 Output Setting

デジタル出力の設定を行います。



#### ■Pulse Out

デジタル出力の有効/無効を選択します (チェック時有効)

#### Frequency

デジタル出力からフルスケール流量時 1000Hz を基準として、流量%×10Hz のパルスを出力します。

#### Error Output

エラー発生時にデジタル出力が ON します。

#### High Alarm

Set point を上回った場合、デジタル出力が ON します。

#### Low Alarm

Set point を下回った場合、デジタル出力が ON します。

#### ●Total

Totalization で設定した値を 1 カウントとして、内部カウンタに蓄積、デジタル出力で出力します。 逆流時は内部カウントが減少します。

カウント数=積算流量/Multiplier factor×Total Calibration factor ※瞬時流量/Multiplier factor×Total Calibration factor は 60000 以下で使用してください。

#### ●Total Preset H

"Totalization"で設定した値を 1 カウントとして、内部カウンタに蓄積した数値が、"Totalization"の"Total Preset H"を超えた場合、デジタル出力が ON します。

逆流時は内部カウントは減少します。

内部カウントのリセットは通信で可能です。

「2.2 Status Monitor」を参照。

※内部カウントが 999999 を超えた場合、0 から再カウントします。

その際は、"Totalization"の "Total Preset H"を下回るとデジタル出力は OFF します。



# 2.2 Status Monitor / Zero Adjust

各チャンネルのステータス表示とゼロ点調整のメニューです。



全チャンネルの流量・動作ステータス・エラーステータスを表示します。

赤がエラー状態または出力の ON 状態を示します。

検出器を使用しないチャンネル (Sensor Kind が "None" 設定) は、流量・動作ステータス・エラーステータスは灰色になり表示されません。

#### Zero Adjust

指定チャンネルのゼロ点調整を実行します。 ゼロ点調整を実施すると b4 ステータスが赤く表示されます。 ゼロ点調整が成功した場合、b4~b9 のステータスが緑になります。

# ●Count Reset

指定チャンネルの内部積算カウント値をリセットします。

# Full scale[mL/min]

指定チャンネルのフルスケールを表示します。

# Flow[mL/min]

指定チャンネルの流量値を表示します。

#### ●Total count

指定チャンネルの内部積算カウント値を表示します。

#### Device No.

ステータスを読み込む変換器の CH アドレスを指定します。



# ●Status

ステータスの状態を示します。各ステータスの意味は以下の通りです。

b0	None	予備
b1	Received signal abnormal	受信波形異常(エンプティセンサー、気泡混入等)
b2	Reverse flow	逆流
b3	None	予備
b4	Zero adjustment now	ゼロ点調整中
b5	Zero adjustment error	ゼロ点調整不能(エンプティセンサー、気泡混入等)
b6	Setting mode now	設定可(ゼロ点調整中、EEPROM 書き込み中以外の場合)
b7	EEPROM writing	EEPROM 書込み中
b8	Total preset H	積算プリセット H
b9	None	予備
b10	Memory connection status	センサメモリ接続状態
b11	Output test	出カテスト
b12	Sensor EEPROM error	Sensor EEPROM 障害 (センサ EEPROM アクセスエラー、チェックサムエラー)
b13	EEPROM error	EEPROM 障害
b14	Startup procedure	起動中
b15	Download mode	ダウンロードモード中



# 2.3 Flow Monitor

流量モニタのリアルタイム表示、流量データを保存します。



# 2.3.1 START / STOPボタン

流量モニタのリアルタイム表示を開始/停止します。

# 【停止時のボタン状態】



"START" ボタンを押下すると、流量モニタのリアルタイム表示を開始します。

# 【開始時のボタン状態】



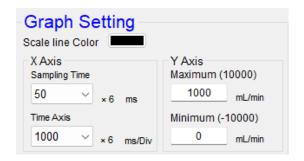
"STOP" ボタンを押下すると、流量モニタのリアルタイム表示を停止します。

# ●Elapsed Time

流量モニタのリアルタイム表示の開始経過時間を表示します。



# 2.3.2 Graph Setting



# X Axis

流量グラフの横軸表示を設定します。

Sampling Time : 全 CH の流量データの取得間隔を設定します。

・Time Axis : 流量グラフ横軸の表示間隔を設定します。

※設定値が "Sampling Time < Time Axis" となるように設定します。

#### Y Axis

流量グラフの縦軸表示を設定します。

• Maximum:流量表示最大値を設定します。

・Minimum : 流量表示最小値を設定します。

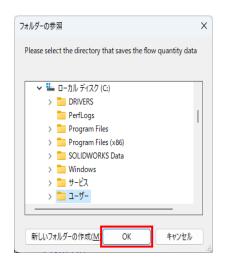
※テキストボックスに数値を入力し、"Enter"キーを押下すると設定します。

### 2.3.3 Data Log



リアルタイム表示中の流量データを CSV ファイルで保存します。

- 1) "Data Log Enable" をチェックします。
- 2) 「フォルダーの参照」画面が開きます。 CSV ファイルを保存する場所を設定し、"OK" ボタンを押下します。



3) 1ファイルに保存する流量データ数を設定します。



4) "START" ボタンを押下すると、流量モニタのリアルタイム表示を開始します。 同時に、流量データの保存を開始します。



※CSVファイルは、下記タイミングで保存します。

- ・流量モニタのリアルタイム表示を停止した時
- ・流量データ数が1ファイルに保存する流量データに達した時

※CSV ファイルの保存を終了する場合には、流量モニタのリアルタイム表示を停止します。



#### 2.3.4 流量トレンド



#### ■Top Address

取得するデータの先頭アドレスを指定します。 本欄で指定したアドレスから+5番目までのデータを取得できます。

#### Single

データを取得するアドレスを選択する場合に選択します。 チェックボックスにチェックしたアドレスのデータのみ取得します。

#### Multi

先頭アドレスから+5番目までの全データを取得する場合に選択します。



"Single"を選択した場合、センサを接続していないアドレスはチェックボックスのチェックを外してください。チェックマークが付いたままですと、"Read Error"となります。

同様の理由で、"Multi"は "Top Address" から+5 番目までの全データを取得する際にのみ選択してください。

#### ●Full Scale

設定されているフルスケールを表示します。

#### Flow

現在の瞬時流量を表示します。

#### ●Trend Color

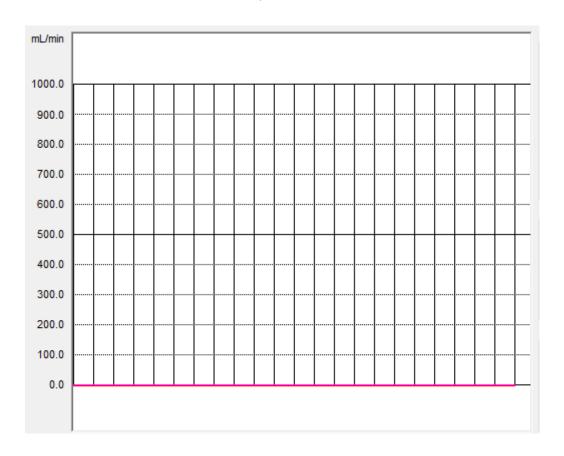
流量グラフの色を設定します。色ボタンで「色の設定」画面が開きます。 色を選択して"OK"ボタンを押し設定します。





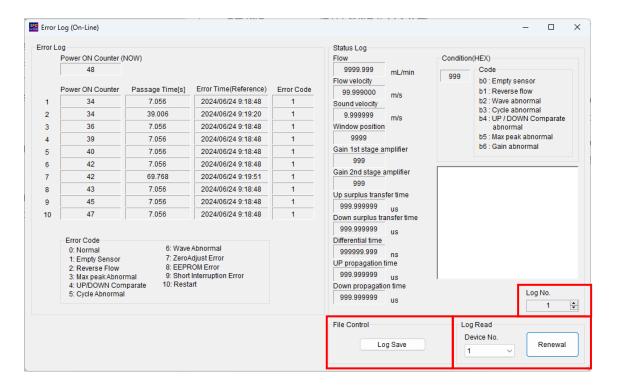
# 2.3.5 流量グラフ

各チャンネルの瞬時流量を時系列でグラフ表示します。



# 2.4 Error Log

エラー発生時のログを表示します。



#### ●Log Read

エラーログを表示するチャンネルを"Device No."で設定します。

"Renewal" ボタンを押下すると、過去 10 回分のエラーログを表示します。

#### Device No

読み込む CHアドレスを指定します。

# Renwal

指定している CH アドレスのエラーログを読み込みます。

# ●Log No.

エラーログ番号を"Log No."で設定します。

エラーログ番号のエラー詳細ステータスを表示します。

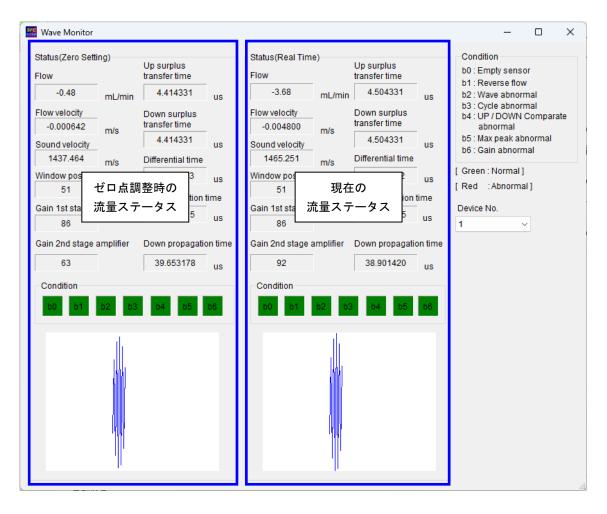
# ●Log Save

エラーログを保存します。

- 1) Log Save を押下すると、「フォルダーの参照」画面が開きます。
- 2) エラーログを保存する場所を設定し、"OK" ボタンを押下します。
- 3) 10 回分のエラーログを CSV ファイルとして保存します。

# 2.5 Wave Monitor

流量ステータスと受信波形をリアルタイム表示します。



画面左側がゼロ点調整時の流量ステータス、右側が現在の流量ステータスを表示します。 "Condition" は緑(正常) と赤(異常)で表します。

# 2.6 Firm Download

SFC011SBのファームウェアを更新します。 ※ユーザーは使用しないでください。

# 3. エラーメッセージ

# 3.1 COM Port Open Error

**COM PORT OPEN ERROR** (ポート "**COM XX**" は存在しません。) 以下の原因が考えられます。

- 1) COM Setting の "COM Port" で設定した通信ポートと通信コンバータが挿入されている通信ポートが合っていない可能性があります。
  - ⇒ COM Setting の "COM Port" で、通信コンバータが挿入されている通信コンバータを選択してください。
- 2) 通信コンバータと PC 間の通信ケーブルが断線している可能性があります。 ⇒ 通信ケーブルを交換してください。

# 3.2 Write Error / Read Error

- ・Write error: パラメータを書込む際に表示されることがあります。
- Read error: パラメータを読込む際に表示されることがあります。

以下の原因が考えられます。

- 通信エラーの可能性があります。
   ⇒ 再度、読込みや書込みをして、通信を行ってください。
- 2) 通信コンバータと SFC011SB 間の通信ケーブルの極性や端子番号が間違っている。 または、断線している可能性があります。 ⇒通信ケーブルの極性、端子番号、断線の有無を確認してください。
- 3) SFC011SB に電源が投入されていない可能性があります。 ⇒ 電源を投入してください。
- 4) 通信設定を間違えている可能性があります。 ⇒ COM Setting メニューの通信設定を確認してください。

# 3.3 XX is O to O

XX is O to O: パラメータ設定値に制限範囲を超える値が入力されている時に書き込むと表示します。

以下の原因が考えられます。

パラメータ値に不適切な値が入力されています。

⇒ パラメータ値に適切な値を入力してください。



# ■ サービスネット

製品の不具合などの際は弊社営業担当か、弊社営業所までご連絡ください。営業所については弊社ホームページをご覧ください。

# ■ 製品保証

弊社ホームページをご覧ください。

All right Reserved Copyright © 2023 TOKYO KEISO CO., LTD. 本書からの無断の複製はかたくお断りします。



〒105-8558 東京都港区芝公園1-7-24芝東宝ビル TEL: 03-3434-0441(代) FAX: 03-3434-0455